

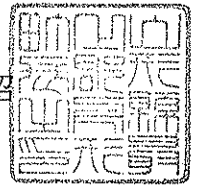


舟振発第1049号

平成19年5月7日

国土交通省道路局長 殿

舟形町長 伊藤 和昭



中期的な計画の作成にあたっての意見提出について

標記中期的な計画の作成にあたっての意見提出について、別添のとおり提出いたしますので宜しくお願いします。

今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

■重点化を進める上で特に優先度の高い政策

インフラ整備は全国民平等の願いであり、そしてそれを確実に実現していかなければならない。今の現状を見ると都会には多額の予算をつぎ込みどんどん整備が進んでいるが、地方の高速道路といえば全線開通はおろか途切れ途切れの道路であり非常に利用しづらく差別感を感じざるを得ない。

都会にいくら道路を整備しても道路状況が良くなれば、その分また車の交通量が増え渋滞の解消にはつながらないのではないだろうか。

活力ある地域づくりや町づくりには、社会資本整備として道路整備は必要不可欠であり、道路ができることにより町の顔が変化していくし、そこで生活している人々も活気が出てくることは必然のことである。

高速道路は完成するまで年数も経費もかかりすぎる。経費をおさえるため、橋梁やトンネルは必要最小限になるルート選択や、土羽構造で構造物を減らし、経費のかからない地方の道路を先に整備すれば、高規格幹線道路網図にある自動車専用道路の整備率も高くなるし、国の責任において公共事業を行い、道路特定財源は全て道路整備に利用すべきであり一般財源化には絶対すべきでない。地方はまだまだ道路整備が必要であり、人々の活力がみなぎる政策を是非お願いしたい。

■効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

◎事業コストを下げる。(橋梁やトンネルは最小限におさえる)

◎地震国日本においてコンクリート構造物は絶対大丈夫とは言えない、地震が起きても安心な構造を考えるべきである。

◎用地買収費が高すぎる。その地域にあった通常価格程度にすべきである。

◎低コストで出来る構造物等の研究をさせて随時試作品として利用してはどうか。

◎橋梁を見るとすばらしい高さやデザインの物が多いが、無駄な構造物に思える。いつかは老朽化がくるし、その時にまた同じ物を造らなければならないとすれば、負の財産になるのではないか。

■その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関するご意見

美しい国日本は、地方も都会も同じレベルとまではいかなくとも、国民がそこに住んでいて幸せを感じられる国の政策があつてこそ思うものであつて、地方切り捨ての政策では地方は疲弊してしまう状況にある。

道路整備も出来て良かったと言われる整備でなければならない。地方の高速道路は地方の人たちだけが利用するだけでなく、人命を救う救急医療での利用や、物流でも利用するし、都会の人たちの利用だつてあるはずである。一部の評論家の、「地方に高速道路はいらぬ」という意見が通り国がそれを実施するなら国会議員はなんのためにいるのだろうか？ 道路整備はもちろん環境にも、地球温暖化にも配慮する必要があるが、近未来に向けた道路整備として、また、それが生かせる整備をしていけば車がガソリンから次世代エネルギーに変わったとしてもすぐに切り替えられる政策をしておけば無駄な整備ではないと思う。